

平成 28 年度新規課題

研究区分	委託プロ	試験期間	H28~32
課題名	薬用作物の国内生産の拡大に向けた技術の開発 (担当課題名) 本州以南におけるトウキ、ミシマサイコの栽培適性の解明と持続的栽培技術の開発		
関連の重要研究課題名	Ⅱ 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発 需要・用途に対応した野菜の持続的安定生産技術の確立		
主担当試験場・部	野菜花き試験場・佐久支場（共同機関：（国）西日本農研、医薬健栄研ほか）		

【現状と課題】

漢方製剤・生薬は、医療現場における評価の高まりや高齢化の進展などを背景に国内の使用量が増加している。原料となる生薬は、約8割を中国からの輸入に依存しているが、中国国内での需要の増加などにより、今後、安定的な原料生薬の調達が困難になるおそれがある。

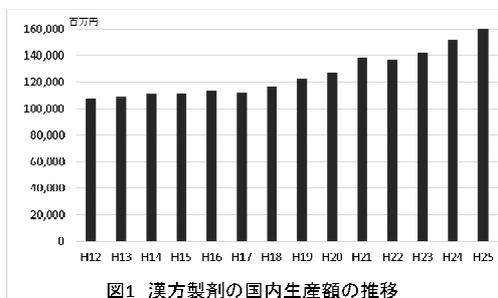
このため国内栽培が再評価され、各地で薬用作物の栽培が再開されつつあるが、種苗の不足、栽培技術の未整備および技術者養成の遅れにより、産地化が進まない状況にある。

本県では平成 21 年度から園芸畜産課や長野県薬草生産振興組合等が中心となって、需要に見合った薬用作物栽培の推進を図っているが、栽培技術が確立されていない品目もあり、種苗の安定確保と栽培技術の確立が課題となっている。

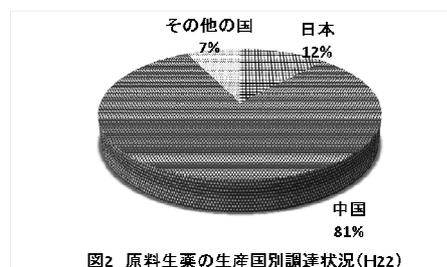
本課題では、本県の推進品目であるトウキ、ミシマサイコについて、全国での栽培比較試験を通して生育や収量の地域特性を明らかにしつつ、持続可能な安定的生産（栽培・調整）技術を確立する。

【試験研究計画】

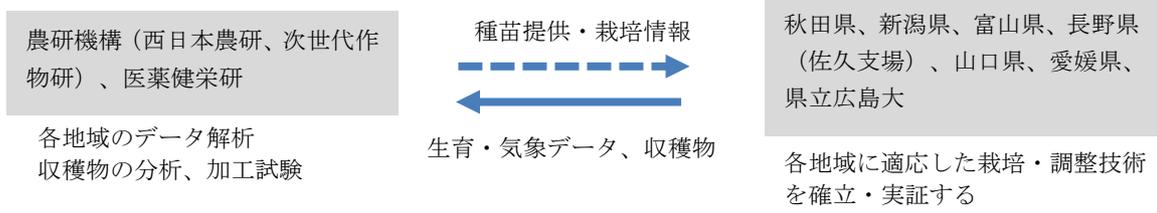
1. トウキおよびミシマサイコの効率的な種苗生産技術及び栽培・調整技術の開発を行う。
2. トウキおよびミシマサイコの安定生産のための栽培マニュアルを策定する。



漢方製剤の生産額は 10 年間で 45% 増加
原料生薬の需要は今後も増加が見込まれる



原料生薬の 8 割は中国からの輸入品
中国国内の需要増、環境問題など供給不安定化



【期待される成果】

1. 県の推進品目であるトウキ、ミシマサイコの栽培特性が明らかになり、種苗増殖法、栽培・調整法の基礎的技術が確立する。
2. 中山間地域、遊休農地へ複合品目として導入できる。